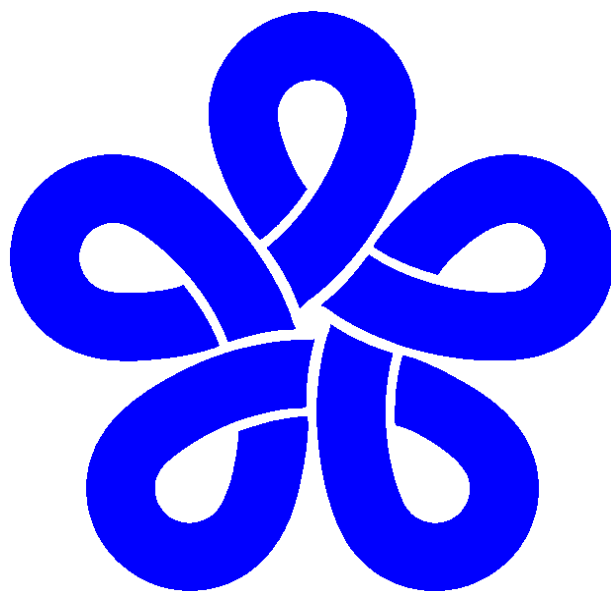


福岡県ボストン・ニューヨーク訪問団 報告書



令和5年10月15日～20日

福岡県議会

福岡県ボストン・ニューヨーク訪問団 報告書

1 概要

アメリカ合衆国のスタートアップの一大集積地である州都ボストンを擁するマサチューセッツ州とのスタートアップ分野における交流促進や、経済・文化の中心であるニューヨークでの八女茶プロモーションのため、知事からの参加要請に基づき、県議会として訪問団に参加したものの。

在ボストン日本総領事館を会場として「フクオカイノベーションナイト」を開催し、製薬・バイオ・メディカル関係者を招待し、日米間におけるビジネス機会の提供に寄与しました。マサチューセッツ州政府の訪問や、mRNA（メッセンジャーアールエヌエー）技術を活用した新型コロナウイルスのワクチン開発で急成長したモデルナの本社、ボストンのバイオコミュニティを束ねる支援機関である Mass Bio（マスバイオ）を訪問し、意見交換会等を実施した。また、ニューヨークの日本茶専門店の視察や八女茶と食事のペアリング試食会を行い、現地飲食関係者やメディア関係者、インフルエンサー等に玉露や抹茶を堪能いただき、八女茶のプロモーションを行った。

2 日程

令和5年10月15日（日）～10月21日（金）（4泊6日）

3 訪問団

福岡県知事	服部 誠太郎
福岡県議会議長	香原 勝司
九州の自立を考える会会長	原口 剣生
福岡県議会 自民党県議団会長	松尾 統章
福岡県議会 民主県政県議団会長代理	守谷 正人
福岡県議会新政会福岡県議団会長代理	堀 大助
その他参加議員	5名
経済団体等	16名
（随行職員）商工部 4名、企画・地域振興部 1名、秘書室 1名	
議会事務局次長 ほか3名	

10月16日

◆MITマーティン・トラスト・センター訪問（10：00～11：00）

【訪問先概要】

1990 年、MIT 内の複数の学部が協力する形で、ビジネススクール内に MIT マーティン・トラスト・センター（アントレプレナーシップ・センター）が設立され、年間 900 社もの新会社が設立されている。

現在、センター運営にあたっては、① MIT キャンパス全体の関与と協働（ビジネスや工学の学生・教員の連携） ② 教員と実務家による“デュアル・トラック”（MIT の motto である“mind and Hand”） ③ リアルな課題解決を伴う“アクション・ラーニング”の重視 ④ 個人ではなくチームの重視（会社設立の訓練として）の4つが重要視されている。

【対応者略歴】

ビル・オーレット氏

- ・ マサチューセッツ工科大学（MIT）で起業家教育を担う MIT マーティン・トラスト・アントレプレナーシップ・センターのマネージング・ディレクターであり、人気講師のひとりでもある。
- ・ みずから創業したセンサブル・テクノロジーズ社など複数のベンチャー企業の社長・役員ほか、MIT スローン・スクール・オブ・マネジメントの上級講師を兼務。
- ・ IBM 勤務を経て、MIT スローン・スクールで経営を学んだのち起業した経験をもつ。センサブル・テクノロジーズ社は 20 カ国へ進出し、24 以上の賞を受賞。
- ・ ハーバード大学卒（エンジニアリング）、MIT スローン・スクールで経営学修士取得

【報告】

起業家教育の分野で九州大学と交流があるMITマーティン・トラスト・センターを訪問し、センター長であるビル・オーレット教授から、センターの活動や起業家教育に関する考え方について説明を受けた。

香原議長は「福岡県は、自動車産業に加えて、バイオや水素など様々な成長産業の育成に取り組んでいる。さきほどのオーレット教授の話で、起業家精神という言葉が心に残った。我々政治家も、政治家精神というものを持ちながら活動している。今回の訪問で学んだことを県議会として成長戦略等の政策提案に活かしてまいりたい」と挨拶した。



（議長挨拶）



（右：オーレット教授）



【所見】

今回の視察から福岡県においても、起業を特別なものとして捉えるのではなく、教育の中で育成する視点が重要であることを認識した。大学、高専、高校、企業、自治体が一体となり、若い世代が挑戦できる環境を整備することは、福岡県の産業競争力向上につながる。

また、大学の研究成果を社会実装へ結び付けるアクセラレーション機能の充実、ベンチャーキャピタルとの連携強化、人材交流の促進など、福岡県版エコシステムの形成をさらに進める必要がある。議会としても、産学官連携を支える制度整備やスタートアップ支援、人材育成に関する施策を積極的に後押しし、福岡県がアジアを代表するイノベーション拠点となるよう取り組んでいく必要があると感じた。

福岡県は、九州大学をはじめとする教育機関、福岡バイオコミュニティ、ワンヘルスの取組、アジアへの地理的優位性など、多くの強みを有していることから、それぞれの資源を有機的に結び付ける政策を推進し、挑戦する人材を育成し続ける地域づくりを進めることが、本県の持続的な成長につながるものと思われる。

◆マサチューセッツ州政府訪問（12：00～13：00）

【訪問先概要】

マサチューセッツ州は、ライフサイエンス・バイオ分野におけるグローバル・ハブであり、特にケンズール・スクエアの一角は、創薬研究の聖地。州政府としても中小企業の海外展開を支援。

- ・ バイオ分野の人材育成に力を入れており、バイオ関連企業がマサチューセッツ州に拠点を置き、大学や研究機関と密接に連携していることが、学生に対して大きなメリットをもたらしている。
- ・ マサチューセッツ州にとって、日本は主要な貿易相手国（輸出 6 位、輸入 7 位）。重要なパートナーと考えており、直行便の確保にも力を入れた。
- ・ ボストン都市圏には、50 以上のアクセラレーターやインキュベーターが存在し、起業家を支援する環境が充実している。その中核となっているのが CIC。
- ・ 2022 年 11 月の中間選挙で当選したモーラ・ヒーリー州知事は、州予算 1% を環境・エネルギー分野に投資することにより、気候変動に関するイノベーションを次のフロンティアにすることを就任演説で表明した。

【対応者略歴】

① モーラ・ヒーリー 州知事 (Maura Healey)

- ・ マサチューセッツ州の 73 代目の知事（民主党）、2023 年 1 月 5 日に就任。
- ・ マサチューセッツ州史上初の女性知事、LGBTQ を公言。
- ・ 優先課題は住宅、交通、職業訓練、育児。
- ・ 2014 年と 2018 年にマサチューセッツ州の司法長官に選出。
- ・ 司法長官時代に、消費者、労働者、学生、高齢者、移民、LGBTQ コミュニティ、障害者コミュニティの権利を保護。

② イボーン・ハオ氏経済長官

- ・ 投資会社 Cove Hill Partners 社の共同設立者、顧問、マネージング・ディレクター、ピラー・ベンチャーズのオペレーティング・パートナーなど、経営幹部として 25 年以上のビジネス経験を持つ。
- ・ 以前は、2018 年にアマゾンに買収されたオンライン薬局 Pillar Ventures 社の最高執行責任者および最高財務責任者を務めた。
- ・ また、Bain Capital 社の元オペレーティング・パートナーでもある。
- ・ CarGurus 社、Flywire 社、Gentherm 社、ZipRecruiter 社、Bose 社といった企業の取締役も務めている。
- ・ ベス・イスラエル・ラヒー・ヘルズの理事会副議長、母校ウィリアムズ・カレッジの名誉理事を務めるなど、地域社会との関わりも深い。

【報告】

マサチューセッツ州政府を訪問し、ヒーリー州知事とは、両県州の交流を促進していくことを確認した。また、ハオ経済長官とは、バイオ分野における投資やビジネスの実現に向けた意見交換を行い、「両県州は産学官連携が非常に密接であるといった共通点が多く、今後連携して取り組んでいけるのではないかな」との期待が示された。

香原議長は「本日、バイオについては、久留米市選出の原口副会長が、また、ロボットについては、北九州市選出の松尾会長がお越しなので、それを踏まえた意見交換ができればありがたい」と挨拶した。



(ヒーリー知事と)



(ハオ経済長官との意見交換)



(前列中央：ハオ経済長官)

【所見】

行政は単に補助金を交付するだけではなく、大学で生まれた研究成果を事業化へ導き、企業誘致や人材育成、海外企業との連携まで一体的に推進している。

州政府は、民間企業と同じ目線に立ちながら、研究開発や設備投資、人材育成への支援を積極的に実施しており、行政自らが産業振興のプレーヤーとして機能している点が非常に印象的であった。また、ライフサイエンスだけではなく、住宅政策、交通政策、教育政策なども産業政策と一体で進められており、「人が集まる都市づくり」を強く意識した施策が展開されていた。

福岡県においても、企業誘致だけでなく、人材が集まり、定着し、挑戦し続けられる都市づくりという視点をより強く持つ必要性を感じた。

◆モデルナ本社訪問（15：30～16：30）

【訪問先概要】

2010年(約13年前)に数名で設立。現在は5,000名以上の従業員を抱え、世界約20か国に拠点を構える。東京にもオフィスがあり、今後日本国内に mRNA 製造工場の建設を予定している。

- ・同社のワクチン製造プラットフォーム（どの mRNA ワクチンも同じ製造プロセスで、その配列を変えるだけで他のワクチン等が製造可能）により、柔軟に多くの医療ニーズへの対応が可能。また、製品は4つのヌクレオチドと脂質ナノ粒子（LNP）だけで構成されていることから、製造工程が簡素化され、パンデミック時も即座に対応できる。
- ・今回のコロナワクチンの開発で得た知識により、RSVなどの呼吸器系のウイルスやインフルエンザワクチンの開発を強化することが可能になり、ワクチン分野では呼吸器系のパイプラインが最も進んでいる状況。通常、ワクチン開発にはフェーズ1～3まで6～8年程度かかるが、コロナワクチンは1年以内、インフルワクチンは2年以内、RSV ワクチンは2年4か月以内に開発。

【対応者略歴】

①パトリシア・ゴーチェ 副社長

- ・希少疾患のグローバルフランチャイズ担当の副社長
- ・HEC モントリオールのMBA プログラムを卒業後、GSK（グラクソ・スミスクライン）に入社。営業、マーケティング、政府関係、ワクチン事業部門におけるエグゼクティブ・リーダー等を歴任。

②クリスティ・ショー副社長

- ・呼吸器系ワクチンのポートフォリオ担当の副社長
- ・ハーバード大学で微生物学と分子遺伝学の博士号を取得後、ノバルティスファーマのRSウイルスワクチンの研究プログラムリーダーを経て、モデルナに入社。
- ・RSウイルスを含む複数のワクチンのプログラムリーダーなどを歴任。COVID-19、インフルエンザ、RSウイルス、及び呼吸器系混合ワクチンの開発を管轄。

mRNA（メッセンジャーアールエヌエー）技術を活用した新型コロナウイルスのワクチン開発で急成長したモデルナの本社を訪問し、同社幹部から、同社の成長の推移や事業計画について説明を受けるとともに、同社の理念や今後の製造拠点についての意見交換を行った。

九州の自立を考える会の原口副会長は、「福岡県議会は、数年前からコロナウィルスなど動物と人との共通感染症という問題に服部知事とともに取り組んできた。また、私は、福岡バイオバレープロジェクトに2001年の立ち上げから深く関わってきたが、2021年には、内閣府からバイオコミュニティに認定され、日本を代表するバイオ産業の集積地へ成長を遂げた。本日は、貴社の成長にかかる取り組みを伺い、本県のバイオ産業のさらなる成長に活かすとともに、今回の訪問を機に本県企業との連携を進めていただきたい」と挨拶した。

【所見】

新型コロナウイルスワクチンの開発で世界的に知られるモデルナは、単なる製薬会社ではなく、「mRNAを核としたテクノロジー企業」であることを強く感じた。

従来、ワクチン開発には10年前後を要するとされていたが、同社ではmRNAという共通プラットフォームを活用し、AIやデジタル技術、ロボティクスを融合させることで、研究開発期間を大幅に短縮していた。同社が目指しているのは、一つの薬を開発する企業ではなく、「医療そのものの未来を創る企業」である。

がん治療、希少疾患、感染症など幅広い分野への応用が進められており、データ解析やAIを活用した研究開発体制は、今後の医療の在り方を大きく変える可能性を秘めていた。また、本社内では研究者だけではなく、データサイエンティスト、AIエンジニア、ソフトウェア開発者など、多様な専門人材が同じ空間で研究開発を進めており、「異分野融合」が企業成長の原動力となっていることを実感した。



(原口副会長挨拶)



(左：ショー副社長、中央：ゴーチェ副社長)



◆ピッチイベント「フクオカイノベーションナイト」(18:00~20:00)

会場：在ボストン日本国総領事館

参加者：製薬・バイオ・メディカル関係者（日系及び現地企業）

現地VC、金融関係者、大学関係者、ボストン日本人会、現地メディア 等 100 名程度

現地の製薬企業やベンチャーキャピタル等を対象としたピッチイベント「フクオカイノベーションナイト」を開催した。在ボストン日本国総領事館を会場として、約 100 名の方々が来場した。

服部知事による本県のバイオ産業振興策のプレゼンテーションに続いて、本県が支援しているバイオスタートアップ企業 3 社によるプレゼンテーションが行われた。その後、交流会が開催され、共同研究や資本提携についてなど、今後のビジネスに繋がる意見交換が活発に行われた。

自由民主党福岡県議団の松尾会長は、「本日まで来場の皆様に、本県のスタートアップ企業に興味関心を持っていただき、新たなビジネスチャンスが生まれることを期待している。そして、このイベントを契機にマサチューセッツ州と福岡県のビジネス交流がより一層盛んになることを願う」と挨拶した。



(プレゼンテーション)



(松尾会長挨拶)



【所見】

在ボストン日本国総領事館において開催された「フクオカイノベーションナイト」では、福岡県のバイオ産業の取組やスタートアップ企業の技術を世界へ発信した。現地の製薬企業、ベンチャーキャピタル、投資家、研究者など約100名が参加し、福岡県のスタートアップ企業によるプレゼンテーションや交流会が行われた。

福岡県は、福岡バイオコミュニティを中心にスタートアップ支援を進めているが、海外投資家とのネットワーク形成や国際的なピッチイベントへの継続的な参加は、今後さらに重要になると考えられる。今回の交流を契機として、共同研究や企業間連携など具体的な成果へ発展することを期待したい。

10月17日(火)

◆Mass Bio（マスバイオ）訪問 10：30～11：30

【訪問先概要】

- ・ボストンに集積するバイオ・メディカル分野のベンチャーや、ベンチャーとの協業を模索する大手製薬企業、ベンチャーキャピタル、法律・会計・特許事務所、行政機関等、多様なプレイヤーを一つに束ね、効率的にイノベーションを創出することを目的に非営利組織として設立。
- ・会員のバイオベンチャーに対し、起業家によるメンタリングやビジネス専門家による事業・知財戦略策定、資金調達支援などを実施。
- ・数名規模の商談や数百名規模の会議・イベントにスペースを提供。会員同士のコラボレーションを促進（インキュベーション施設「MassBioHub」の提供）。
- ・会員企業の人材確保を支援する他、バイオ系研究者に対するキャリア支援を実施。
- ・世界中の研究者やバイオベンチャー経営者、機関投資家を呼び込むため、海外向けに積極的な広報・誘致活動も行っている。

【対応者略歴】

ベン・ブラッドフォード渉外部長

- ・2017年にマスバイオに加入。経済開発・労働力担当役員として、マスバイオと自治体、国際機関、地元の不動産・開発コミュニティとの関係を統括。
- ・会員企業や非会員企業と協力し、移転や拡張に関する意思決定を支援。外国の経済開発機関との関係を通じて、外国企業と米国市場を結びつける役割も担っている。
- ・マスバイオの会員企業がマサチューセッツ州での事業拡大を目指す際、人事面でのサポートも行っている。
- ・マスバイオ入社以前は、マサチューセッツ・ライフサイエンス・センターで事業開発・地域戦略担当ディレクターとして勤務。マサチューセッツ州でビジネスを展開する新規企業の開拓や、州全体の産業拡大を目的に、州内の自治体との関係構築を担当。

【視察内容】

ボストンのバイオコミュニティを束ねる支援機関である Mass Bio（マスバイオ）を訪問し、その取り組みを伺うとともに、本県バイオスタートアップ企業がプレゼンを行い、マスバイオからバイオスタートアップ支援に対する有益な助言・提案をいただいた。

香原議長は「何か新しいものを創出していくときに政治の力が必ず必要になるので、我々も政治の力を使いながら様々な企業の支援をしていく。今回、企業の皆さまのために政治として何ができるのかを学ばせていただきたい。また、我々はワンヘルス、人と動物と環境を一体的に考えて世界を変えていくという取り組みを行っているので、ぜひ、このワンヘルスというテーマについても、マスバイオが関わっている企業には頭においていただきたい」と挨拶した。

【所見】

「世界トップクラスのバイオクラスターは、一つの企業によって形成されるものではなく、エコシステム全体によって支えられている」ということを改めて認識した。

MassBioは、政策提言、人材育成、共同購買、アクセラレーションプログラム、資金調達支援などを一体的に提供し、企業が研究開発へ集中できる環境を整えており、特に、創業初期企業への支援制度「MassBioDrive」は、資金だけではなく、経営支援、ネットワーク形成、メンタリングまで包括的に提供している。

また、共同購買事業「MassBioEdge」は、中小企業の研究コストを大幅に削減し、限られた資金を研究開発へ集中させる優れた仕組みであった。行政だけではなく、産業支援団体がここまで包括的な役割を担っている点は、福岡県においても参考にすべきである。





(マスバイオの取組み説明)



(左：ブラッドフォード渉外部長)



10月18日(水)

◆クレスキルレクリエーションセンター視察（10：30～11：30）

【訪問先概要】

クレスキル自治区パークスアンドレクリエーションの目標は、クレスキル自治区の住民に高品質で適切かつ手頃な価格のプログラムとサービスを提供することである。身体的健康、精神的幸福を促進するために、あらゆる年齢層を対象としたスポーツや講座、その他のプログラムを提供している。また、地域の需要やトレンドの変化に合わせてサービスを進化させることに重点を置き、常に見直しを行い、さまざまなレジャーサービスを提供している。

【報告】

ニュージャージー州のクレスキルにあるレクリエーションセンターを訪問し、地域で取り組んでいる青少年や大人向けのスポーツプログラムの説明を受けた。

実施しているスポーツは、ベースボール、アメリカンフットボール、バスケットボール、サッカーなどで、利用者は習熟度により2つのチームに分かれている。コーチやスタッフについては、初級チームはボランティアで、上級チームは認定を受けたコーチで給料が支払われている。この給料や施設のメンテナンス代など運営に係る費用は、利用者が支払う使用料で賄われている。

ベン・ロメオ市長は、「私は市長として選ばれたときに、12歳の子どもたちのためにまちづくりをしようと考えて、このレクリエーションプログラムを作った。」と挨拶した。

香原議長は、「私は地元で体育協会の会長を長く務めているが、抱えている課題は皆さまと一緒に、行政だけでやっていくのは限界があり、皆さまのような熱い気持ちを持った地域の方々としっかりと子どもを育成していく必要がある。今日学ばせていただいたことを、我々福岡県議会、地域に帰って活かしていきたい」と挨拶した。



（屋外視察）



（議長挨拶）



(ロメオ市長挨拶)



(屋内視察)



◆日本茶専門店「Kettl（ケトル）」訪問（14：00～15：00）

【訪問先概要】

ブルックリン・グリーンポイントで営業している日本茶専門店。茶葉だけでなく、茶筴や茶筒などの茶道具も取り扱っている。静岡・京都・鹿児島など日本各地から輸入しており、産地や品種で提供している。

その後、オーナーのザック・マンガン氏は、県産食材輸出促進を目的に福岡県が実施したバイヤー招へい事業により、八女市の産地を訪れている。

【視察内容】

ニューヨーク最大の八女茶取り扱い店である日本茶専門店「Kettl（ケトル）」を訪問し、創業者のザック・マンガン社長とニューヨークにおける八女茶の評価等について意見交換を行った。

ザック氏からは、「八女茶は、煎茶、玉露、抹茶など多種多様なお茶を生産しており、八女茶生産者の品質に対する努力は特別なものがある」と八女茶について高い評価をいただいた。質疑応答の中で、ザック氏から、お茶の種類に合わせた淹れ方をネット等を通じてニューヨーカーに発信していることや、初心者から玄人まで様々な客に対応できるよう多様な商品を扱っていること、今後の事業展開等について、説明を受けた。



（意見交換の様子 左から2人目：マンガン氏）



（店内の様子）



（記念品贈呈）



◆八女茶と食事のペアリング試食会 （18：00～20：00）

関係者

在 NY 日本総領事館大使、現地メディア、飲食店関係者、インフルエンサー等 20 名程度
福岡県茶生産組合連合（藏内 勇夫名誉会長）

【報告】

ニューヨークの 3 つ星レストランである「イレブン・マディソン・パーク」で、オリジナルメニューと八女茶とのペアリング試食会を開催し、メディア関係者やインフルエンサー、飲食関係者の方々に料理と相性の良い玉露や抹茶を堪能していただいた。

香原議長は、「本日は、アジア獣医師会連合会長、九州の自立を考える会会長、福岡県茶生産組合連合名誉会長、アジア獣医師会連合福岡ワンヘルスオフィス所長の藏内会長、九州の自立を考える会の原口副会長、自由民主党福岡県議団の松尾会長、各会派の代表、前議長でもあり福岡県茶生産組合連合会長の桐明会長ら大勢で、福岡県議会は八女茶の売り込みに来ている。八女茶発祥 600 年ということで、伝統を継承していくことも大事だが、大きく変化していく時期が今であると考えている。我々福岡県議会も一緒になって八女茶の応援をしていく」と挨拶した。

藏内会長は、「私どもは世界中に八女茶を PR している。このニューヨークは 2 回目になる。そういう中で、特に八女茶を高く評価してくれている人物を 2 人紹介する。1 人目は、中国の駐日大使、外務大臣を務められた唐家璇（とうかせん）氏。駐日大使を長く務めておられたので、八女茶のことはよくご存じで、このお茶を飲むと健康になるとおっしゃっている。もう一人は、フランス料理の大家のロブション。自分の店舗で必ず、伝統本玉露の水出し茶を出しており、ドンペリに匹敵すると言っている。この 2 人が評価してくれるように、八女茶は 23 年間、日本でナンバーワンになっている。ぜひ、今日は八女茶の長い

伝統を感じながら、その良さを皆さまに発信していただきたい」と挨拶した。

閉会にあたって、桐明議員は、「今年は、八女茶発祥 600 年という記念すべき年である。そして、八女茶は 23 年間ナンバーワンのお茶である。ぜひ、今日満喫していただいた八女茶の魅力を多くの人に伝えていただくようよろしくお願い申し上げる」と挨拶した。



(藏内会長挨拶)



(議長挨拶)



(桐明議員挨拶)



(会場の様子)



(署名後の記念撮影)



(記念品を贈呈する 藏内会長、桐明議長)

【視察総括】

今回のボストン・ニューヨーク訪問は、世界最先端の技術や産業を学ぶ視察であると同時に、福岡県の将来像を改めて考える機会となった。世界をリードする地域では、優れた大学や企業だけではなく、それらを支える人材、行政、投資、教育、文化が一体となり、新たな価値を創造していた。

一方で、福岡県にも世界に誇る多くの資源がある。九州大学をはじめとする高度な研究機関、福岡バイオコミュニティ、全国をリードするワンヘルスの取組、北九州学術研究都市、豊かな農林水産物、ものづくり産業、そしてアジアへの地理的優位性など、本県には大きな可能性が秘められている。重要なのは、それぞれの資源を個別に育成するのではなく、「福岡県全体の成長戦略」として有機的に結び付けることである。大学と企業、企業と行政、行政と地域、さらには福岡県と世界がつながることによって、新たな産業、新たな雇用、新たな価値が創出される。

今回の視察を通じて築かれた人的ネットワークは、その第一歩であり、今後の共同研究、企業交流、投資誘致、県産品輸出など、様々な分野へ発展する可能性を秘めている。私たち福岡県議会は、今回の視察で得られた知見を一過性の成果として終わらせることなく、政策提言、条例制定、予算審議など議会活動を通じて具体的な施策へ反映し、県民福祉の向上と地域経済の発展に取り組んでいかなければならない。

【参加者コメント】

今回の視察を通じて強く感じたことは、「世界トップレベルの産業は、一企業ではなく、地域全体が育てている」ということである。福岡県では、福岡バイオコミュニティ、ワンヘルスセンター、九州大学、久留米リサーチパークなど、多くの優れた資源を有している。今後は、それらを個別に支援するだけでなく、世界と競争できる一つのエコシステムとして結び付ける政策が必要である。

そのためには、大学・研究機関・企業・行政の連携強化、海外投資家とのネットワーク構築、国際共同研究の推進、AI・DXとライフサイエンスの融合、スタートアップへの継続的支援、世界市場を見据えた人材育成を一体的に推進する必要がある。議会としても、これらの取組を支える条例、予算、制度整備を積極的に推進し、福岡県、アジアを代表するライフサイエンス・イノベーション拠点へ成長させていく責務がある。

<参考>

本視察に関連する質問

・令和5年12月定例会 代表質問（靄林 大我議員） ～企業支援について～

福岡県ボストン・ニューヨーク訪問団日程

日 程		時 間	行 程
1	10月15日 (日)		
		11:00	福岡空港集合
		11:15～11:30	出発式
		12:10	福岡空港発〔JL312〕
		13:45	羽田空港着
		14:15	専用車で成田空港へ移動
		18:25	成田空港発〔JL008〕
		18:15	ボストン・ローガン空港着
			【ボストン泊】
2	10月16日 (月)		
		10:00～11:00	MIT マーティン・トラスト・センター訪問
		12:00～13:00	マサチューセッツ州政府訪問
		15:30～16:30	モデルナ本社訪問
		17:30～17:40	在ボストン日本国総領事への挨拶(イベント前の短時間)
		18:00～20:00	在ボストン日本国総領事館でのイベント「Fukuoka Innovation Night」
			【ボストン泊】
3	10月17日 (火)		
		10:30～11:30	Mass Bio訪問
		16:00	ボストン・ローガン空港発(デルタ航空)
		17:30	ニューヨーク・ラガーディア空港着
			【ニューヨーク泊】
4	10月18日 (水)		
		9:30	ホテル発
		10:30～11:30	レクリエーションセンター視察(NJ州クレスキル)
		12:30～13:30	昼食
		14:00～15:00	日本茶専門店「Kettl(ケトル)」訪問
		18:00～20:00	八女茶プロモーション
			【ニューヨーク泊】
5	10月19日 (木)		
		10:00	ホテル発
		11:00	ニューヨーク・JFK空港着
		13:20	ニューヨーク・JFK空港発〔JL005〕
			【機中泊】
6	10月20日 (金)		
		16:35	羽田空港着
		18:45	羽田空港発〔JL331〕
		20:35	福岡空港着式に出席者された皆様との記念撮影)